

Japanese Graded Readers

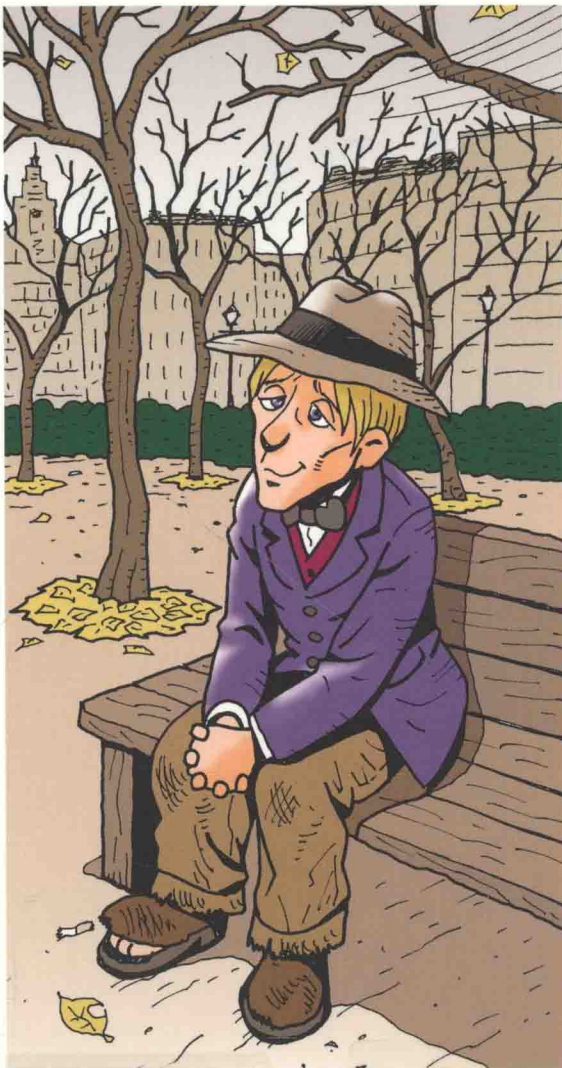
レベル別
日本語多読
ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル **2** vol.3 14

ソノ
冬
の
家
の



原作 = オー・ベン

簡約 = 栗野 真紀子

挿絵 = 早川 修

監修 = NPO法人日本語多読研究会

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

そーぴーのふゆいえ ソーピーの冬の家

～ *The Cop and the Anthem* ～

原作（げんさく）：オー・ヘンリー（おー・へんりー）

簡約（かんやく）：栗野 真紀子（あわの まきこ）

挿絵（さしえ）：早川 修（はやかわ おさむ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」をつくることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 2] vol.3

ソーピーの冬の家 ~ The Cop and the Anthem ~

2008年3月27日 初版 第1刷 発行

原作：オー・ヘンリー (O. Henry)

簡約：栗野 真紀子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：早川 修

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：小金澤 篤子／山中 いっとく

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：株式会社アスク 広報宣伝部

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-digital.co.jp

http://www.ask-digital.co.jp/tadoku (『にほんご よむよむ文庫』公式サイト)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2008

Printed in Japan ISBN978-4-87217-672-8

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

そーぴーのふゆいえ ソーピーの冬の家

～ *The Cop and the Anthem* ～

原作（げんさく）：オー・ヘンリー（おー・へんりー）

簡約（かんやく）：栗野 真紀子（あわの まきこ）

挿絵（さしえ）：早川 修（はやかわ おさむ）

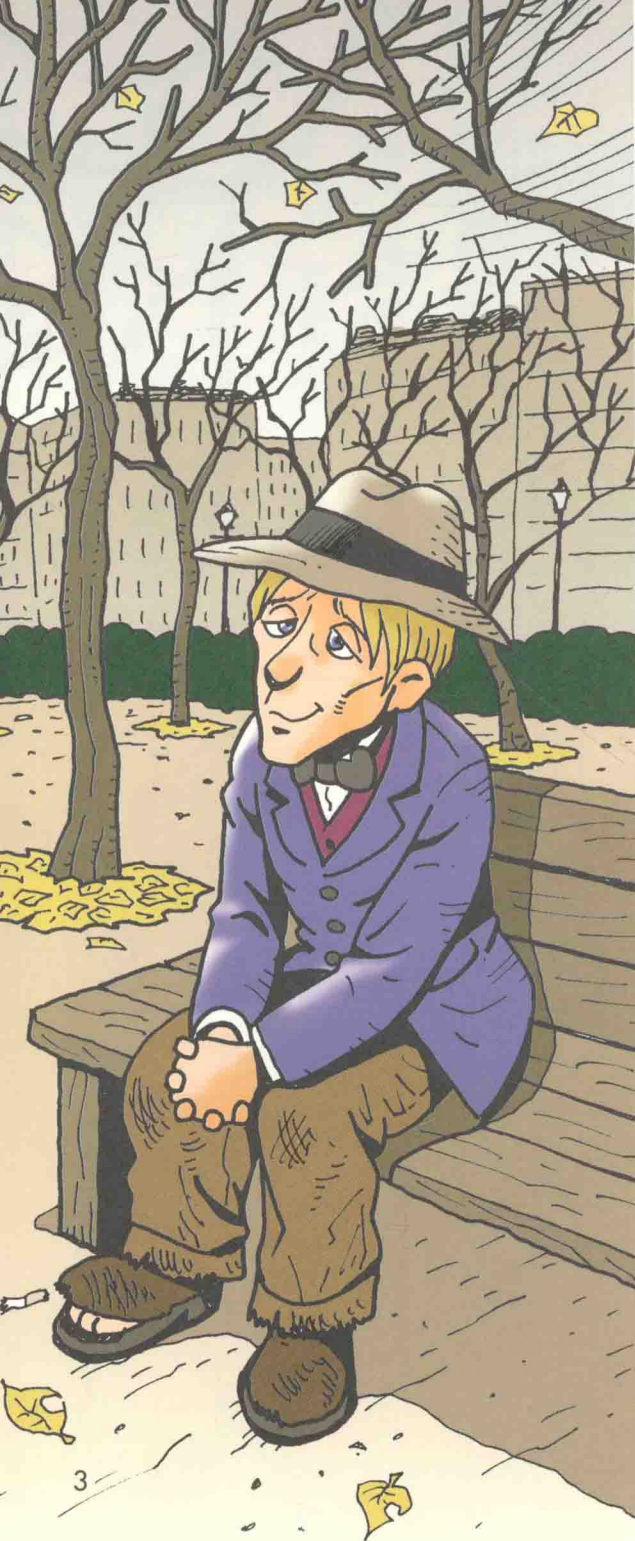
監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

ここは、ニユーヨークです。

ある公園のベンチに、男が一人座っています。男の名前は、ソーピーです。

ソーピーは、仕事をしていません。ソーピーには家がありません。

この公園に住んでいるのです。



じゅうにがつ
十二月です。ソーピーは、空そらを見ていました。空そらは暗くらくて、冷つめたい風かぜが吹ふいています。
さむ
寒さむくて、ここでは、もう寝ねることができません。

でも、ソーピーは、心配しんぱいしていませんでした。「冬ふゆの家いえ」があるからです。

それは、刑務所けいむしょでした。刑務所けいむしょは、悪いことわるをした人ひとが入はいるところですが、刑務所けいむしょでは、

温あたかい食たべ物ものをもらうことができます。友ともだちもいます。ですから、ソーピーは、毎年まいとし、

冬ふゆになると、刑務所けいむしょに入はいるのです。

ことし
今年ことしも、入はいることができるでしょうか？







夕方ゆうがたになりました。

ソーピーソーピーは、ベンチベンチから、ゆっくり
立ちたちました。

これから、レストランれすとらんへ行いきます。

そして、おいしい料理りょうりを食たべて、

高たかいワインわいんを飲のんでから、

「お金かねを持もっていない」と言いいます。

お店みせの人ひとは、警官けいがんを呼よぶでしょう。

そして、ソーピーソーピーを、警察けいさつに連つれていく

でしょう。ソーピーソーピーは、刑務所けいむしょに入はいる

ことができます。

毎年まいとし、そうするのです。



ソーピーは、レストランのほうへ
歩いていきました。

ソーピーの上着は、あまり古く

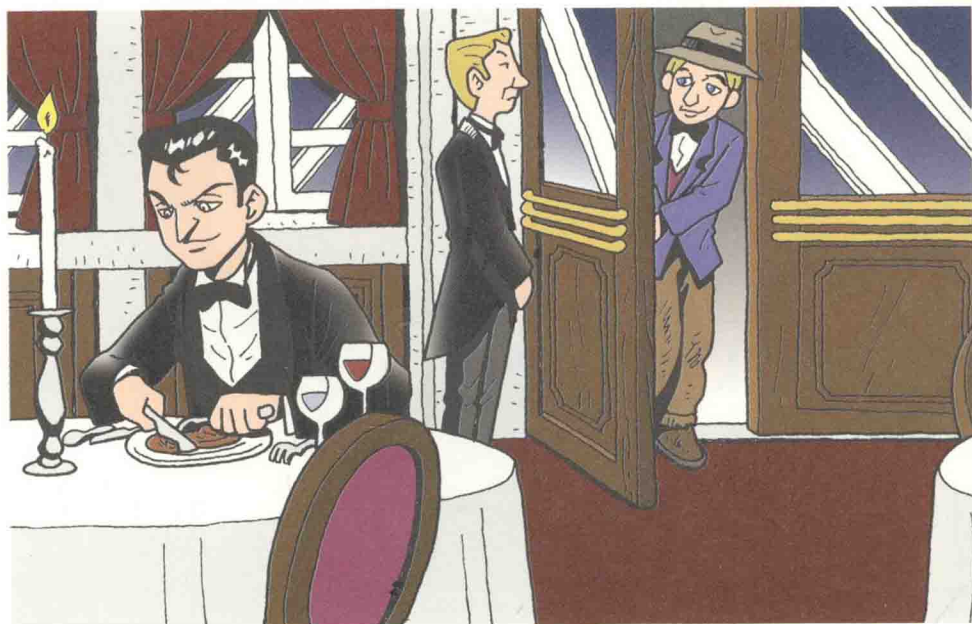
ありませんから、高いレストランでも

入ることができます。ズボンと靴は、

とても古くて汚いのですが、店の人は、

いつも見ないのです。

ソーピーは、レストランに入っていました。



すると、この日、店の人は、ソーピーの古いズボンと汚い靴を見て、すぐに言いました。

「おい、何だ、そのズボンと靴は？ 汚いなあ」

店の人は、ソーピーを、レストランから外へ出しました。

「このレストランは、

おまえが来るところじゃない！」

「あーあ、今日は、だめだった」

ソーピーは、刑務所に入ることができませんでした。





ソーピーは、にぎやかな道を歩いていきました。

とても明るくて、きれいな店がありました。

店の前を、人がたくさん歩いています。

近くに、警官が立っています。

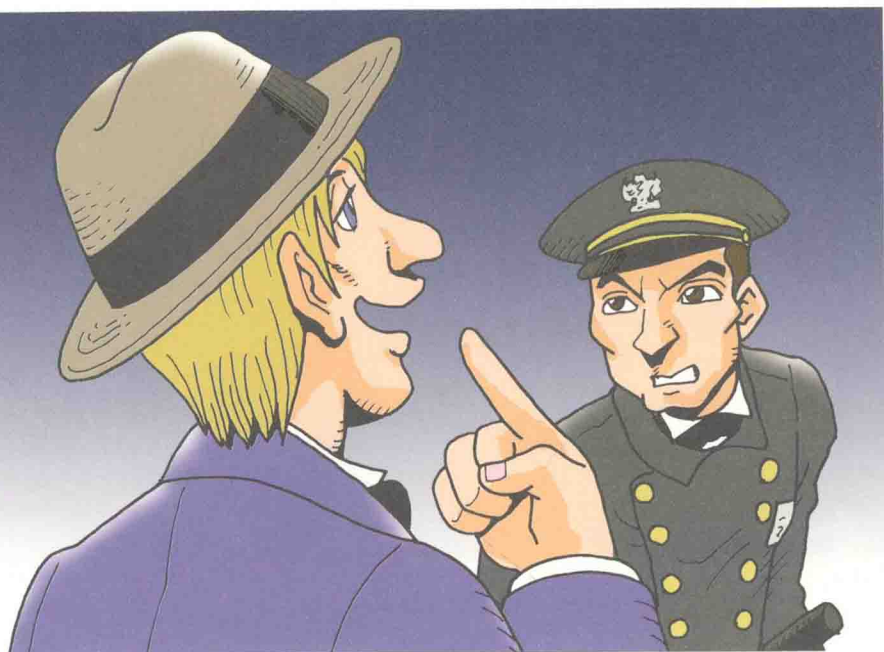
——ここがいい！——

ソーピーは、道にあった石を拾って、

店の窓に投げました。

ガシヤン！

大きな音がして、窓ガラスが割れました。



警官けいかんが、すぐ来きました。

「だれが割わった？」

ソーピーそーびーは、笑わらいながら言いいました。

「私わたしです。私わたしが割わりました」

窓ガラスを割わって、すぐ「私わたしが割わりました」
と言いう人ひとはいません。

ですから、警官けいかんは、「おまえじゃない」
と言いいました。

そのとき、バスのほうへ

走っていく男がいました。

「あ、あの男だ！」

警官は、その男のほうへ

走っていきました。

ソーピーは、また、刑務所に入ることができませんでした。



ソーピーは、大きな道を歩いていきました。

冷たい風が吹いています。

—— ああ、寒い。もう、公園で寝たくない。

すぐ刑務所に入りたいなあ——

歩いていくと、劇場がありました。

きれいな服を着た人たちが、たくさんいます。

「あ、そうだ！」

ソーピーは、小さな声で言いました。

そして、劇場の前で、大きな声で歌いました。

歌いながら、足を高く上げて踊りました。

みんな、びっくりしています。



近くに警官がいます。警官は、ソーピーを、警察へ連れていくでしょう。

ソーピーは、刑務所に入ることができるでしょう。

でも、警官は、劇場の前にいる

人たちに、笑いながら言いました。

「みなさん、この男は、酒を

たくさん飲んだのでしょう。

大丈夫、悪いことはしませんよ」

みんな笑って、ソーピーを見ています。

ソーピーは悲しくなって、歌と踊りを

やめました。





ソーピーは、また、にぎやかな道を歩いていきました。
喫茶店がありました。

中で、男がお茶を飲んでいました。

その男の横に傘がありました。きれいな傘です。

ソーピーは店に入って、傘をとりました。

すると、その男が、大きな声で言いました。

「ちよつと待つてください。それは、私の傘ですよ！」

ソーピーは、笑って答えました。

「わかつています。あなたの傘を、私がとりました。

さあ、警官のところへ、一緒に行きましょう」